八繪

智慧の環

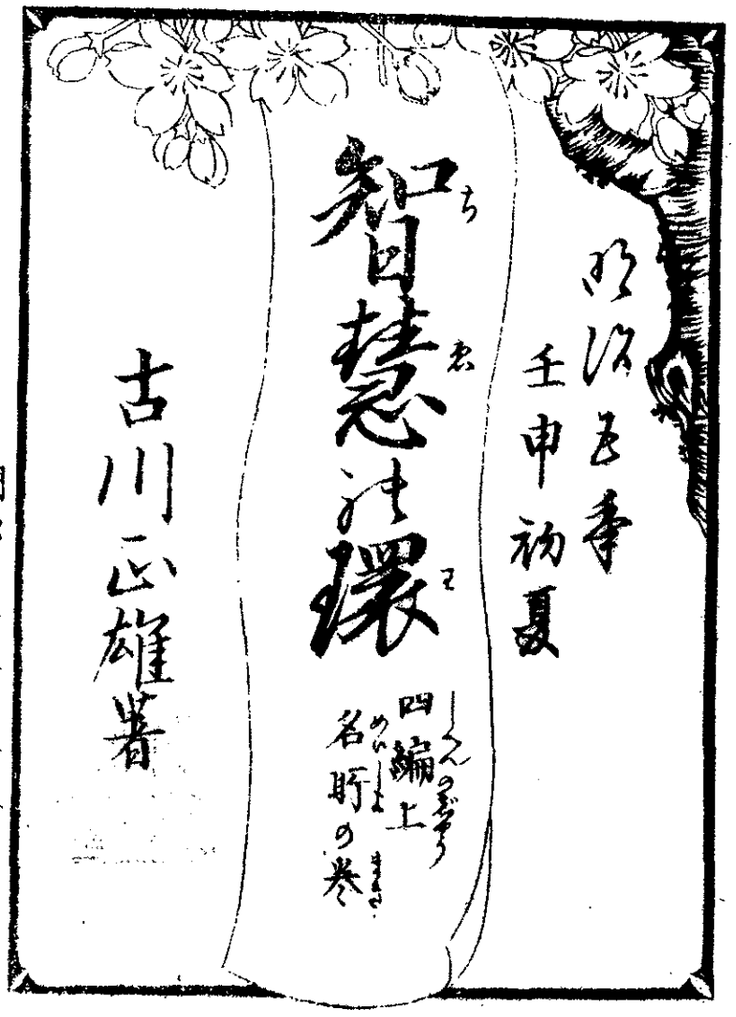
四編上下

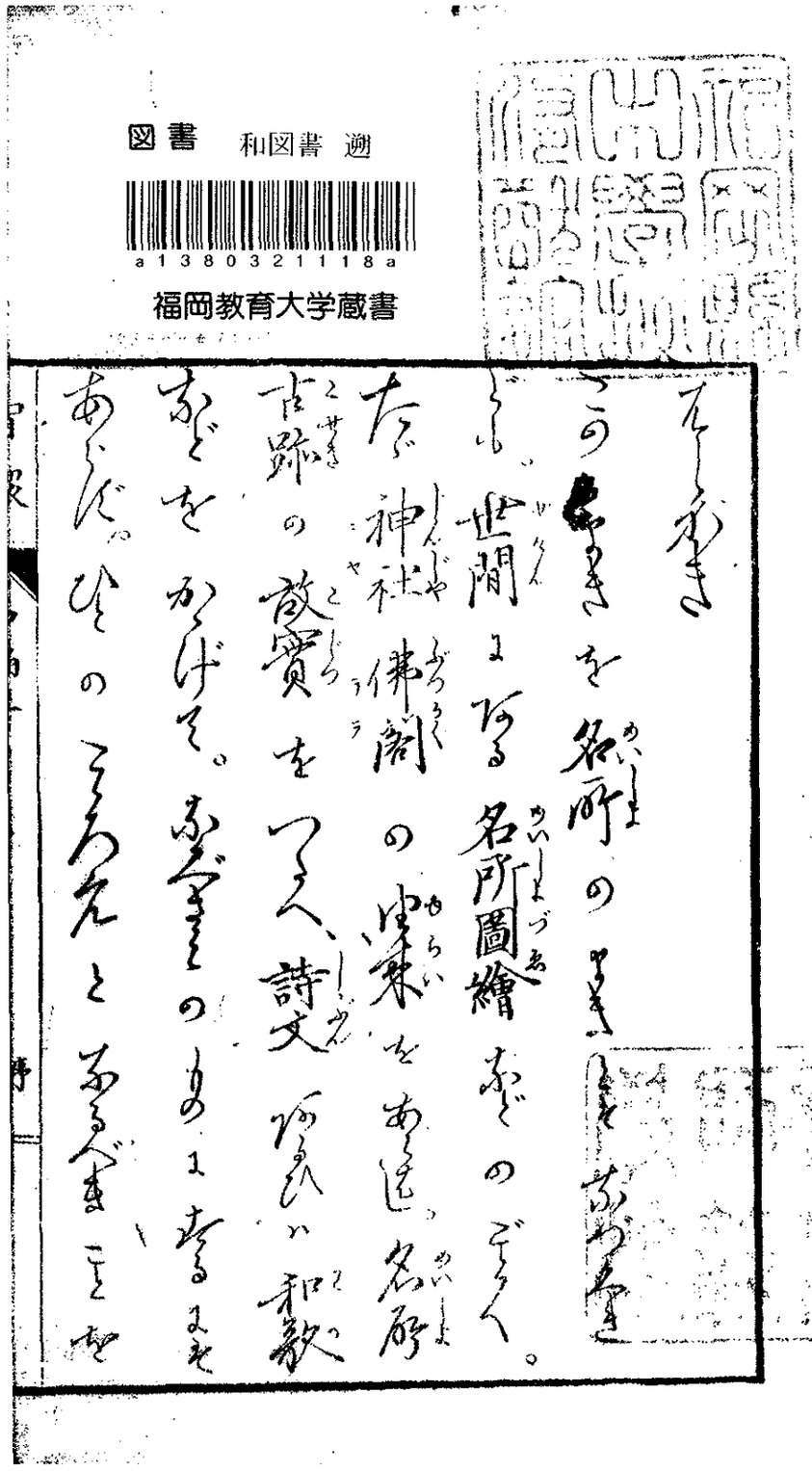
名所の巡

福岡第一師範學校
（學校圖書）
登錄番號 第　號
記　門
貴重　部
日本語　叢書
日　次
全　冊ノ内　冊
分類番號 第　號
081.2

T1A1
10
F 93e
29
C

図書　和図書　遡
a1380321118a
福岡教育大学蔵書





をかき
この書きを名所のまき
とし、世間にある名所圖繪ふぐのごとく。
たゞ神社佛閣の由來をあつめ、名所
古跡の故實をつゝ、詩文巧みい和歌
などをかゝげたり。ふぐまのまゝ
あるべし。ひとの見るべきことを

つとめく かきつけ侍る 小こと

明治五壬申年二月晋　　古川山雄書

○はしがき

こゝに予の年よを書記す人よ、まづ予が今の世にいまだ生まれざるまでの世のありさまを明らかにせんとするよりは、いにしへよりこの方、いかなる人の、いかなる事をなしたりしかを、まづ書記すべきなり

そもく神代といふ事は、たゞ古記の、そこ〳〵に、見つきたるまゝを、はぶきもれぬ、これまでとしおき、そこ〳〵考へたるもそれぞれの天子　より

てんじゃの　てんし　神武天皇、日向の　くにより　ひがしの　ひとびとを　ひきつれて、中國に　おりて、それより
大和の　くにに　いり、すべて　まつろはぬ　ものどもを　つぎつぎに　みな　ことむけ、みかどの
おほしに　ふかのカレ　ハラに　みやこを　さだめ、みかどの
くらいに　つき給ふ。

天皇御即位のとし　より　かぞへて　これより　おんなちつぎの　てんし　おなじく　みつぎ
たまふ　八百六十年　に　神功皇后、新羅を
ご せいばつ　なされ　ぬ。　千三百七十年　に　元明
天皇、奈良に　みやこを　たて　給ふ。この　ころ　カラ
は　學問　おこれて、學問の　修行の　ため
に　カラへ　つかはし　ひとびと　おくり　給ふ。阿倍中麻呂
が　カラの　ことば　を　「ひるの　つき」　と　いひ　ぐさと　した　を
よろこび　て　てんしの　御代　あり　給ふ
千四百五十四年　に　桓武天皇　いまの　西京　に　みやこ
を　うつし　給ふ。この　ころより　ことに　ひとびと　おくり　給ふ
ひとびと、ひとびとも　はじめて　くに、めぐり　たる　ことを
まうす　ど、てんしの　おほせ　を　いつの　おほせ、
臣下の　ひとの　いつまで　ありぬ　ことに　なり　ぬ。

千八百二三十年の頃を平清盛、天下の政を執りぬ。源頼朝これより頼朝つひに将軍となり、天下の政を掌るかはりぬ。これよりのち幾百年かをへぬ。切ちつぎのち、けつぎしが、たゞ天下の政を執ることは、まつりごとを武家より王政の代に戻し、頼朝より王を王代と云ふ、これよりのちを武家の代と云ふ

頼朝のよをさしのちを、その臣下北條氏天下のまつりごとを執り、九代つぎて千九百九十三年に
ほろびたり

北條氏の六代目時宗の代に至りて、蒙古が軍艦を出して、
よく攻めきたり、よせの軍兵を防ぎ、
その年の冬、暴風をカラ吹かせ、
この時カラ元と云ふ世となる
北條氏のほろびの時、つゞく一年ばかりの王政
を行ひたり　足利氏　その時代

まを賞さ、べつて天下を左へつひて天下の政務をうばひとれり

足利氏と十三代つゞきて、二千二百三十三年ふ

あらべり

足利氏の末ポルトガルのふなてあて来れる

まき来れり。これ西洋人の来れるはじめ

てなり

これより織田信長、畿内のあらをうちたひらへて、

つひにまた天下をとせしかど臣下明智光秀がまよりて、あやまて

る

るよをまねく。うまたまた光秀天下のやうを

ぶをうばとせしが、まもなく織田信長の

臣下豊臣秀吉公、これまたまちよりふ大閤

まうちたひらへ

これより大閤殿と称し、天下の英勇をうち

尽くして、天下のはつゝをうつ、朝鮮まで

もせいばつし、いまだ英勇の

ふを示されしが、その死よりまたたび来

の秀頼と幼少まつゝをうることこたて

ざる。かど、二千二百六十三年　徳川家康公、こ

今上皇帝を睦仁と称したまふ

二千五百十二年九月廿二日御誕生

明治六年二十二の歳

[illegible]

[illegible]を以て権現様将軍と称し、[illegible]秀頼を[illegible]天下を[illegible]。これより徳川家のよとなれり

徳川家を十五代の[illegible]天下の[illegible]を[illegible]が、[illegible]明治元年[illegible]王代を[illegible]、[illegible]。

神武天皇より[illegible]の[illegible]を[illegible]。

童蒙必讀と[illegible]本の皇謨の巻を[illegible]

○大日本を東半球のひがしのかたに[illegible]て、暖帯のうちにある[illegible]あり

地面のひろさを一里四方を一里坪として、[illegible]の坪[illegible]を[illegible]ぞ[illegible]二萬三千三百坪あり

[illegible]の四角[illegible]ぞ[illegible]ぞ一百五十二里四方あり

ひろさ[illegible]三千二百八十萬人

外國へ[illegible]生米種麻茶木蝋漆器の[illegible]あり

足利氏の時ポルトガルの人サヤの手ヨリして、はじめて鐵砲を獻上せられ、その後の鐵砲のはじめあり

徳川氏の時オランダより一艘の蒸氣船を獻上せり。これが日本の蒸氣船のはじめあり

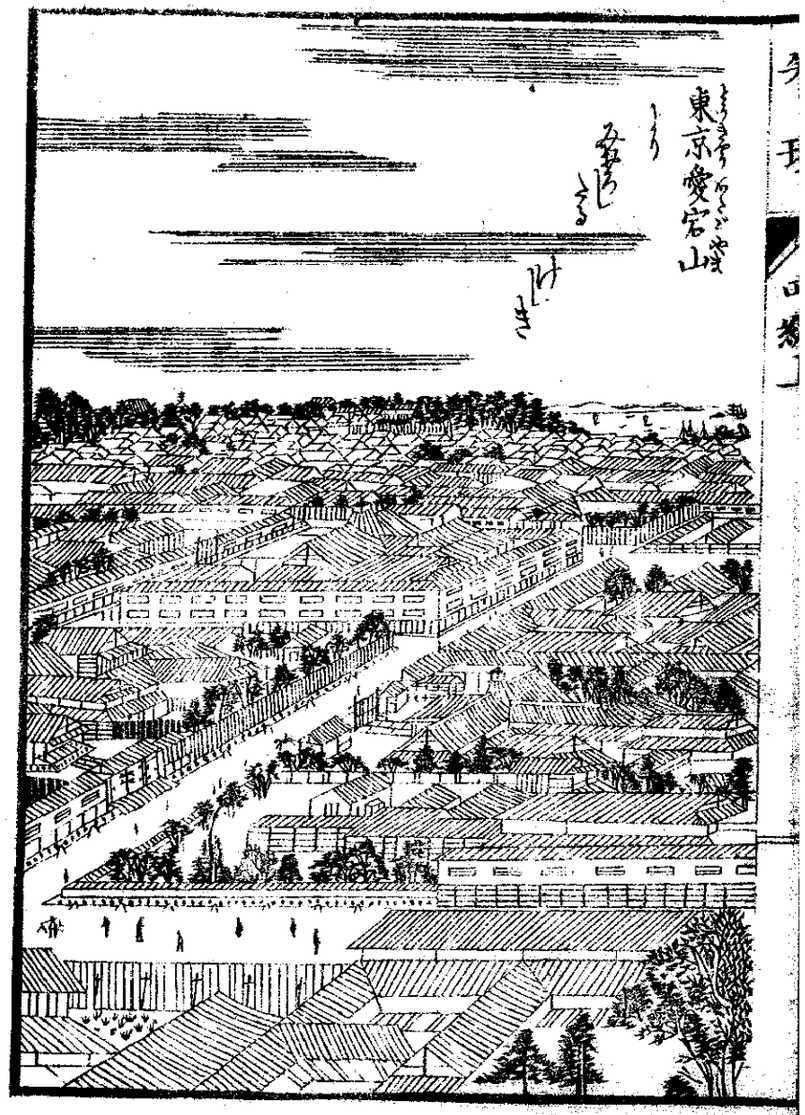
御一新後電信線（これは人の慶喜を出し、また蒸氣車の鐵道は里數を）

武藏

名所の事

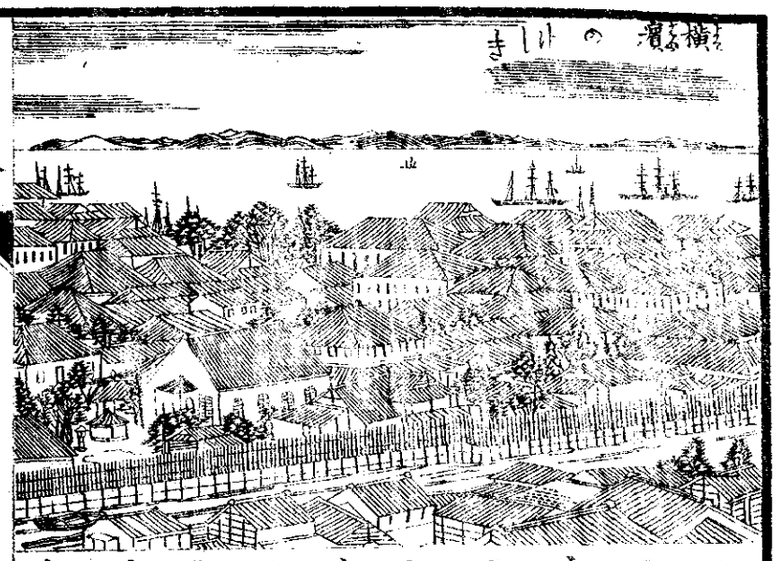
東京を武藏の京と云ふ。日本政府のあるところあり

東京の土地は初め豐臣家の所有ハ、徳川家の政府を建てしより、土地も人家も大都會となり、いまより二三十年前には二百萬人



ばかりなるが、いまを世界八十萬人ばかりあり、東京をひろき、みやこと、世界中まれなるひろきみやこをふたつとあるべからざるものなるべし、ちかごろ、ひろまるものなるよりみやこのうちよりたちまちにあきなうあどおかし、まず東京をもとより山ばかりなるとあるべきぞ、いへのこのうちおのおのみなうちをみるばかり、ひとりの人ぞ、東京をひろくてひろきやうのあれば、ものあきなふ、ものあり

明治元年より交易場とあるて、築地あるを外國人のいへり、鎖港洲



と外國とかよひきのみなとのうちにはいりこんでまるまるとなりたるなり

こゝを明治元年より九年まで人口のかずをしらべたるに、人家

和泉のあるてら。みやあるところ。淺草寺。增上寺。等とちがひ

向島。飛鳥山。等。そ東京の名所なり

東京はそもそもいくの上手なる地。東京の錦繪

煙草。嚢物。組紐。雪駄。下駄。のたぐひとなりも

きてきれいなり。その和の衣服の志をもいつまでも

忘るゝまじくの名所なるを。東京より東京の名所

あり

横濱。ハヤシの。そ東京より西の方

へ。七里ばかりへだたるところあり。その

ところ

まつり はじめ おこる。おもふに かうべきの みなと
なり より 人家 ひらけ つまぐ は いまを 外國人
あつまる 日本人 の 以 そこの のきを ならべ、ちまき はり
の ふるまひ たるあひ よりも 人家 たちまち、そこを はな
外國 の 軍艦 商船 の おもむき、はたらも あげ 出る ほど
そこ ごろ いろ あり でゐね たること あく、ぜんしゃうこん
こと ゆし。されば こそ かう 産物 あれど、産物
こそ あり ひつも たり 製鐵所 こそ 蒸氣仕掛 こそ かゐ の さく
を をる でしよ ひつ あり

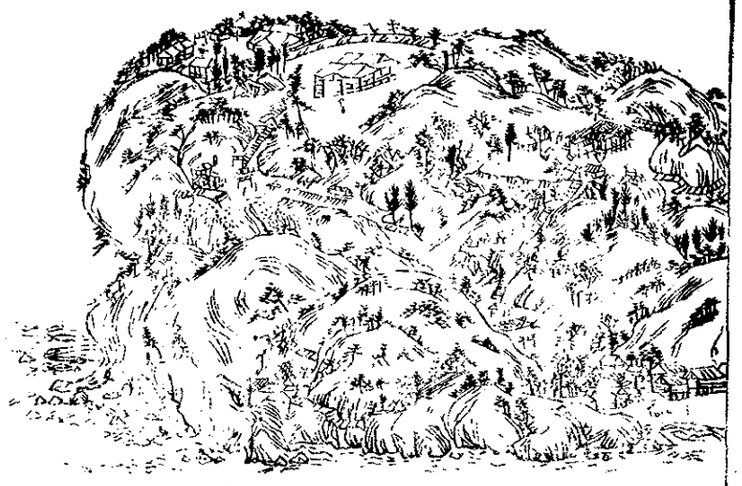
横濱 より およそ 三四里 こゝ の かぐ は はうて 金澤
といふ ところ はう。こゝを 金澤八景 こそ 山水 の
けしき いと よ つくる ところ あり
金澤 より 海上一里 みち の こゝ は ゐれど、そこい
相模 の 横須賀 あり。こゝ ところ を 德川家 の 出
より フランス人 を やとひて、ぶま を ふかく うこと を
うめて、ドック とて ふる 絲 を 造 ふる ところ に
らへ たてめし は、去年 の ちる はじめて ドック 成就し、
それ より 日本 あつ 外國 の 軍艦 商船 はかり、
ふゆ ふく の たぶま あり、人家 も 出 ひく ふへ、ゆ そ

たゝ、ちたゆ、ちまり、ゆるひを
こゝまで、なをひ、ひ、ところ
も、いまも、人家、なをまぎれ
まぎれなる、ところ

と、あるね

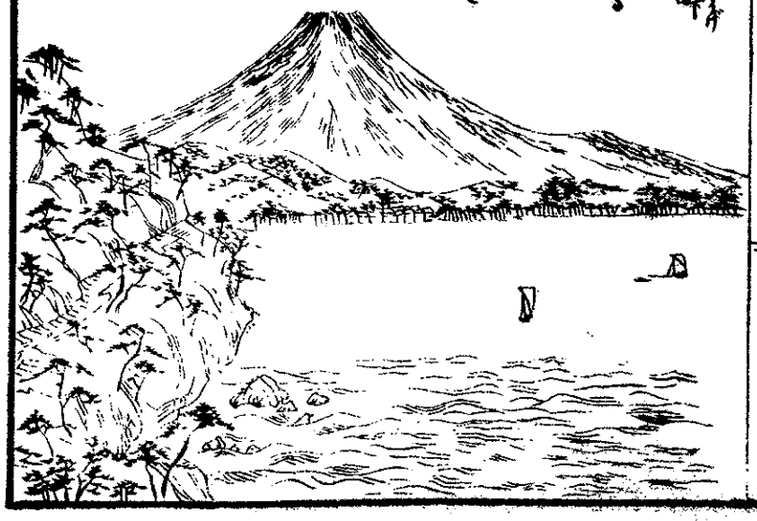
これしかゝしのなをゝゆゑ
なをひ、相模のみなとの
うみべ、江島と、いふこゝ
ゆか。くしまきまゝ、ところ氣
ぜ、こゝ、あるのこゝろそ

江の島のけしき



東京、あるより、ゆゝび、ゝ、ゆくを、おもし
エノシマのむこゝ、鎌倉と、いふこゝろ、ゆゝごゝろ、ゆゝ
頼朝の政府、をゝひ、ゝ、ゝゆまを、をゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、関東
第一の大都會、ゝゝゝ、ゝゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、

駿河

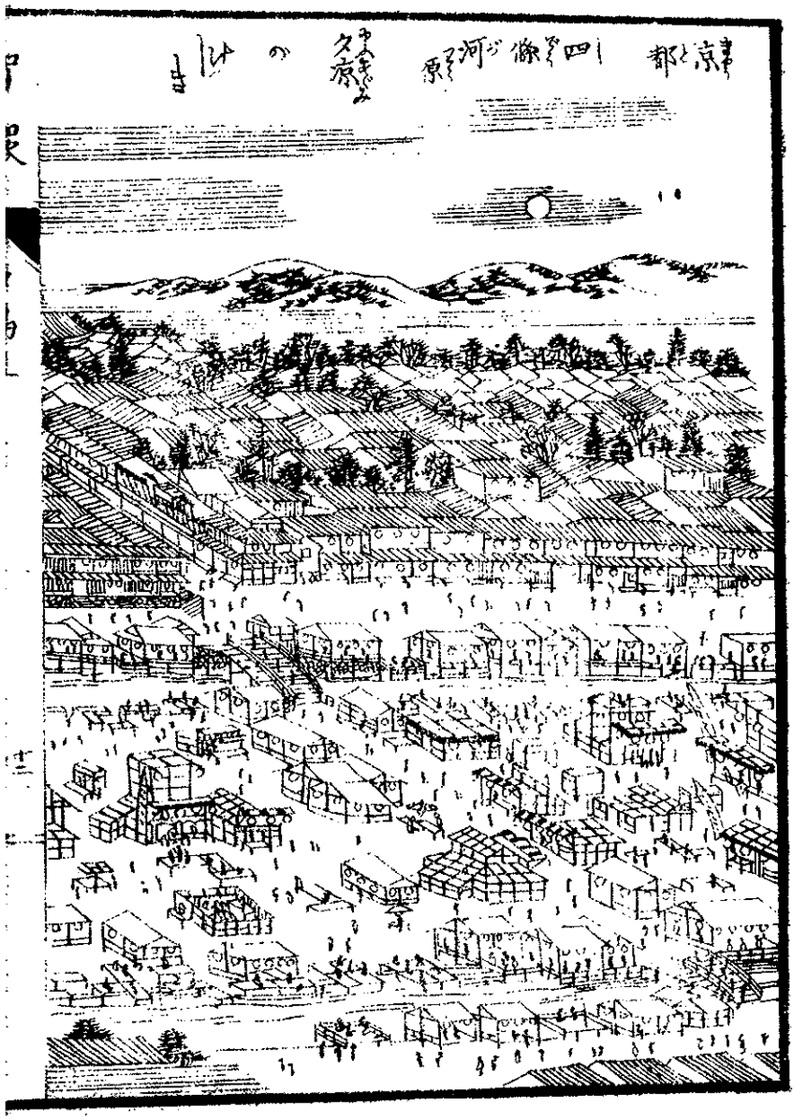


駿河の富士は日本一の高山なり。其ふもとに一里町あり。富士山そびえかゝみたいてい都かたちは見えて、きはめて高山なり

尾張　美濃

美濃の養老の滝

駿河の糸の産物は漆器茶あり。尾張の名は鳴海の絞りそよりあたり。美濃の名は磁器いづ。美濃の名より出づる美濃紙は表裏よく。美濃法あり



伊勢

伊勢の山田を大照大神のやしろなるゆゑ
にとくさんけいのひとぐ参詣。山田より
のうらべは二見浦をけきよきゆゑなり

近江

近江の湖水を日本第一のおほみづうみなり
十七八里。たゞちかつゝひろきゆゑを七八里あり。
いにしへの近江八景をそなへみづうみのまきはなるゆゑ
つぐの八しまはあり

山城

京都まゐりの西京を初めて桓武天皇のはじめて
ひらこりをたまひし御新まをそなへしのゆゑ
みやこはなが、所一野よりうかさてんしを東京と

[illegible]を[illegible]

西京　[illegible]　本願寺　[illegible]

[illegible]

嵐山　を　はじめ　として、[illegible]

西京　を　東京　[illegible]

[illegible]　加茂川の　みづ　を　日本の　名水

[illegible]

西京　の　名産　を　磁器　[illegible]。[illegible]

[illegible]

西京の　[illegible]　[illegible]　三十八萬人

[illegible]　ヤマシロ　の　[illegible]

[illegible]　[illegible]　宇治　と　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　日本　と

[illegible]

大和　の　[illegible]　[illegible]　の　名所　[illegible]

奈良　の　大佛　ハ　唐銅　を　鑄る　[illegible]　大きな　[illegible]

紀伊　の　[illegible]　和歌の　浦　を　[illegible]

[illegible]　[illegible]　の　奈智の　瀧　を　[illegible]

高野山　と　[illegible]　[illegible]　[illegible]

紀伊の名産は蜜柑綿あり。

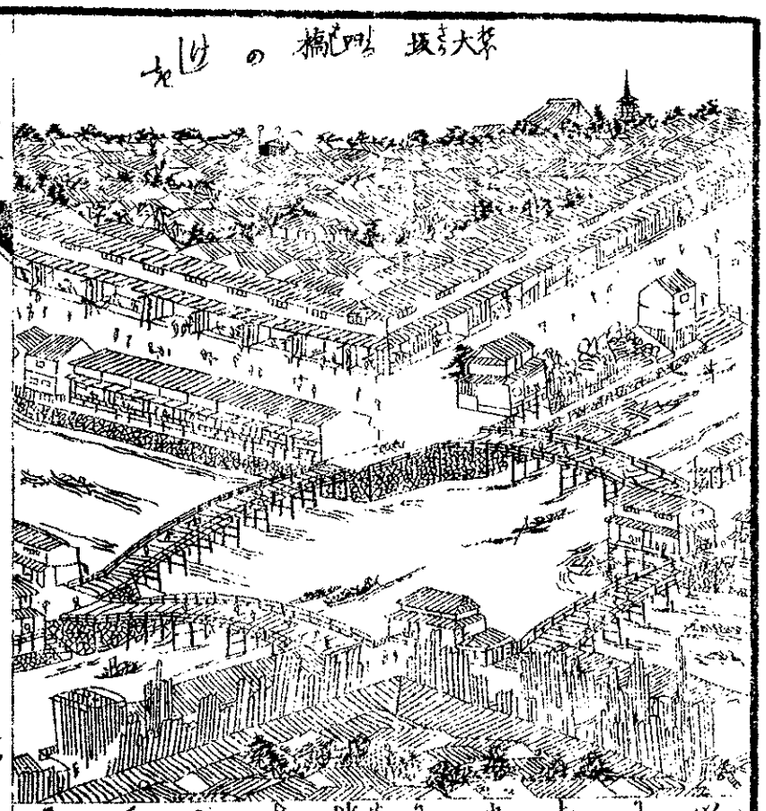
摂津の名産の大坂は関西第一の大都會あり。

また東京は次ぐ大都會あり、大坂は次ぐ大都會を西京あり。これを三都の都という。

大坂の市人は太閤秀吉のまづくりし市人にして、また日本第一の名城とせられ市人あり。

また明治元年伏見の戦争の時、本丸をやけうせて、いまは唯市人のみあり。

天王寺は五重の



塔あり。また塔

より下、市の

山里は大坂の

中ちかひをめ

ぐる、淡路

播磨の国より

河内和泉

のやまでも

てゝるやうに

みゆる。

大坂のなかそいてんをまれいあり。大坂を中國九州四國北國の産物よりつどふところなれば、ぞ商賈ぞくぞくぞ繁昌あり。まづ明治元年より交易場と為せ

ぞ、外國との交易もさかんあり

大坂のひとびと四十三萬人

大坂より南ぞきき泊田伊丹の所をもまきすけを隔てゝいづれもあり

大坂より十里ばかりて、兵庫といふところあり

そもそも地より海べのあるこゝをもあり

兵庫のひとびとの住居ぞ淡川といふかたあり。

これをもまきぞ神戸といふところなり。そもそも

まきぞきとろ商賈が明治

元年の末のとしより

元年と商賈より

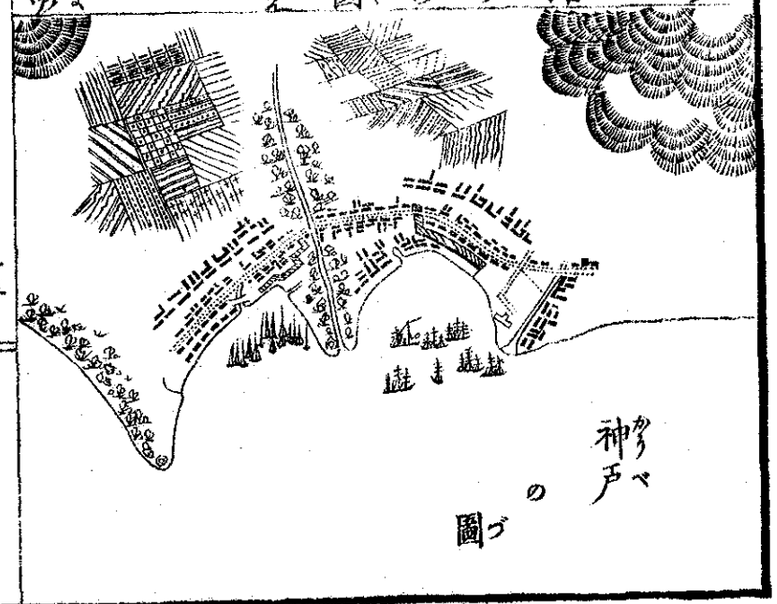
ぞきとろとあり。外國

の軍艦商船のいくつ

ま、あり、かゝるまぐ

さかんあり

ぞ今のかゝるまき七箇所



神戸の圖

のうちを横濱と唱へ山あるを高とこころ
なり

神戸のところの山を丸山といふ。この山つづきを
布引の瀧とそよこ名あるなり

播磨

播磨の名所は舞子の濱、明石あをと恵めと
して名所なり。おなじ名の赤穂を名産と
なほく製するところなり。うらよりいづるやきものを
名産なりといふ。

備中

備中の名の吉備津のやしろをこの所なり
をもつとも名所なるやしろなり

讃岐

讃岐の名ふ象頭山といふ山なり。この山の
金毘羅のやしろをふ名産なり。さんけいなるひとなる
こと

高松といふところの名なり。名産砂糖と松なく
ところなり。きさ名産をおなく製するところなり

阿波

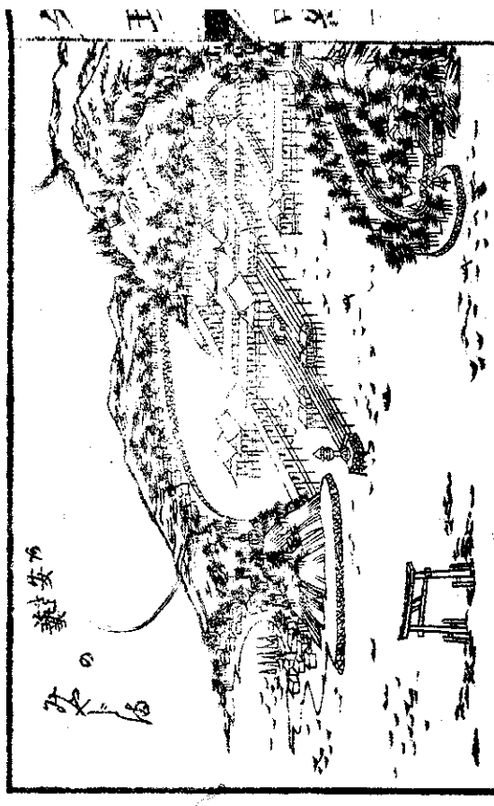
阿波の名ふの名産を藍なり

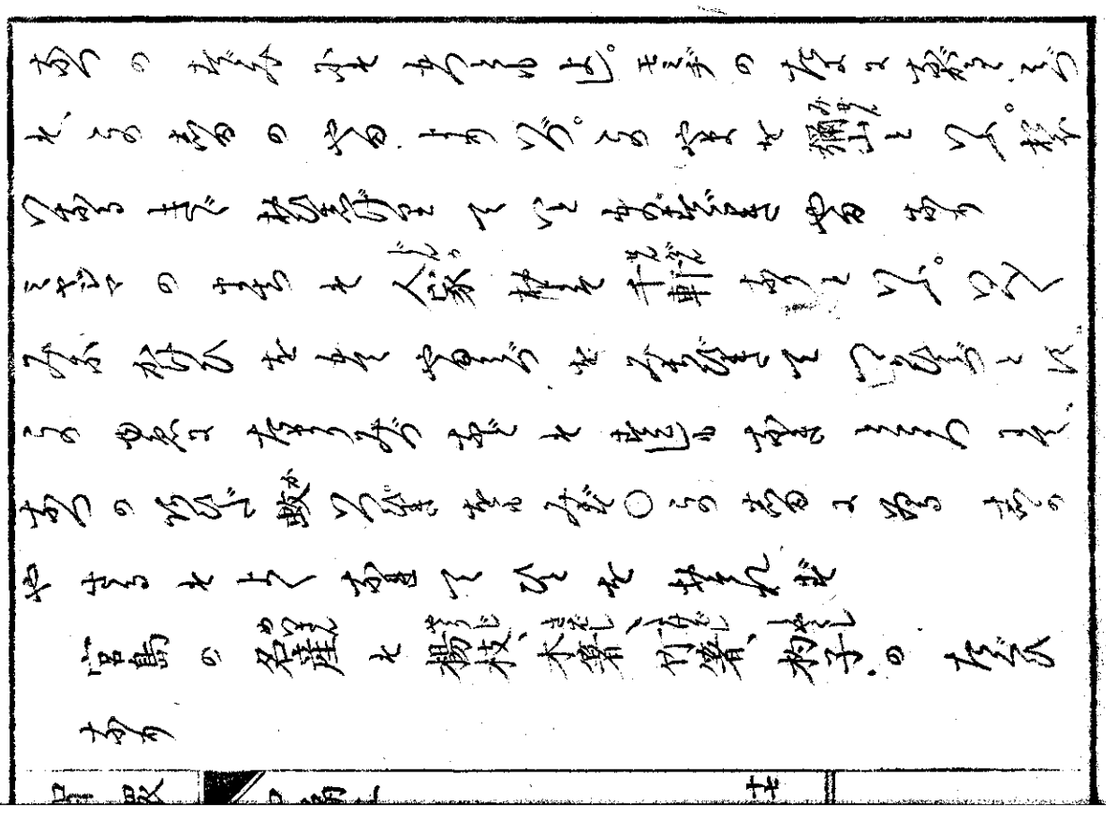
土佐

土佐の名の名産を鰹節なり

安藝

安藝の宮島と日本三景の地のひとつなり。
丹後の天の橋立、陸前の松島、この宮島と日本三景の地
おなじ。四五里なるべきれど土地のひとつなるを七里





周防

周防の岩國のそうぢんぢしをひとまぶのかいへいりつくあるそかまる匹あり。そうぢんの者げさの座いろいろるをたんをかくまづる事あり。さこう匹を錦帶橋をいよ

豐前

豐前の小倉をまぶをまぶる事ろ称ぢ、そよりおりぐぢ物びぢをいろて丈夫をあるぐろ匹

薩摩

宇佐八幡のやーろをうをさをまる紫いるやーろあす

薩摩の糸ぞ九州のみまをの事をうを日本のうちをいちぐんいろるをうをあり

砂糖

サツマ國分煙草をよきたぐを口。きをとサツマしりかをいろ

肥後

びいどろのさいくまと草のをまる匹と

肥後米

をさきサマより行いぢ物ひとまぢ物あるぐよかぐぐぐをまるぐぐを匹

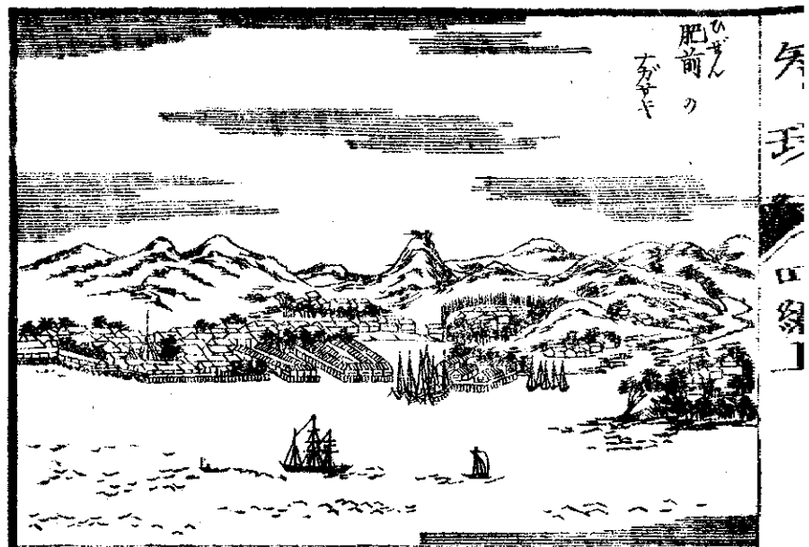
肥後のよきふふあり肥後米をを行ぐ

肥前

あぐまをまぐ珍重せり

肥前の長崎をまるきかりぐきぢあり。

足利氏のまるろくきよりかりぐきのみをとあり。



それより徳川家のえじゆ
うろを ポルトガル イスパニヤ イギ
リス オランダ カラ あど より
南船 ながさき まゐるが、まも
あく かうえきせこそうろう、たゞ
オランダと カラ はをは かう
えきせ あるばかりこと と
ありて、このほかの 商
船 しゝぐ 二艘づゝ いり
きたるのみ ありしが、

横濱の かうえきだと あかしより このかた、あのほ
かうえきだ と どうやうに なりこのうへぐ とのかうえきだ
と あれり
ナガサキを 三だうりに やはり、たゞ一ぢう はきうこそ、氣候
をいうつて ほたかある ところ あり。産物も あまきども、
をべて 九州のまんなかより ところ あれど、かうえき
すまあはぐ さうんあり
ドツ 一ぢうよりは
肥前の くよ ふそよき 石炭のいづる ところ 松。こゝ
唐津の 石炭を ちゐぐ はしるに ちゐ ふ

筑後

の今里より出る磁器もよき品あり

筑後の国の水天宮と称する所あり

筑前

筑前の博多もまた名ある所なり。この所より

ありいだす茶碗と唐物と共に上品なり。また筑前の

国より木蝋を製する

おなじく糸の太宰府の天満宮と称する所あり

この所にたる硯あり

石見

石見の国より銀の出る所なり。この所にて

まねて銀山と

出雲

出雲の大社と称する所なり。この所、こく名の

但馬

但馬の国より金山

丹後

丹後の天の橋立と

日本三景の地のひとつ

なり、その形よろしたり。

たてにながめ横にながめる

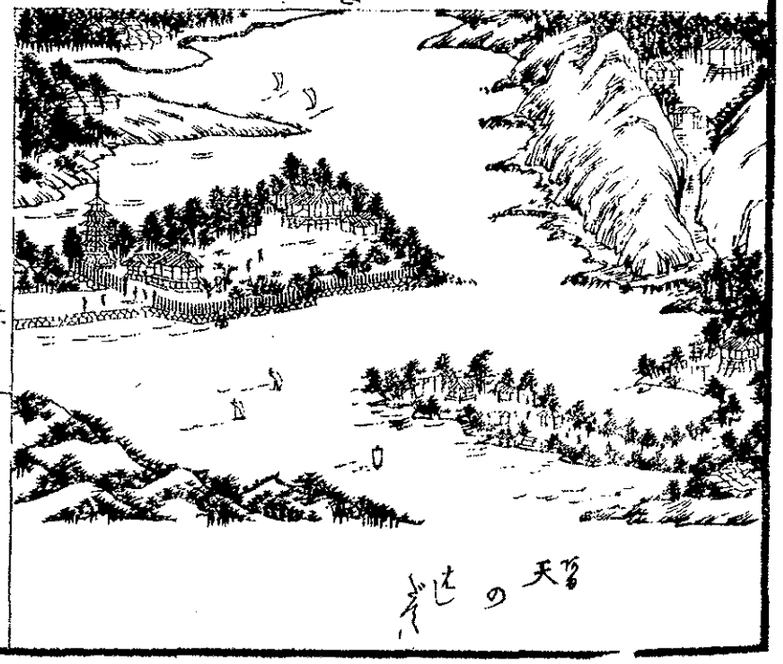
ながめ所れども、ながめ

ところより眺めがよき所

ところあり

雲

ひと松



天の橋立

加賀

加賀の国より出る磁器は、世に聞る九谷焼これ有り

越後

越後の新潟は中ごろより開かるる所にて、明治元年より開港場と定まり、東北ちんぜうの所にて、これぞ国内信濃川の

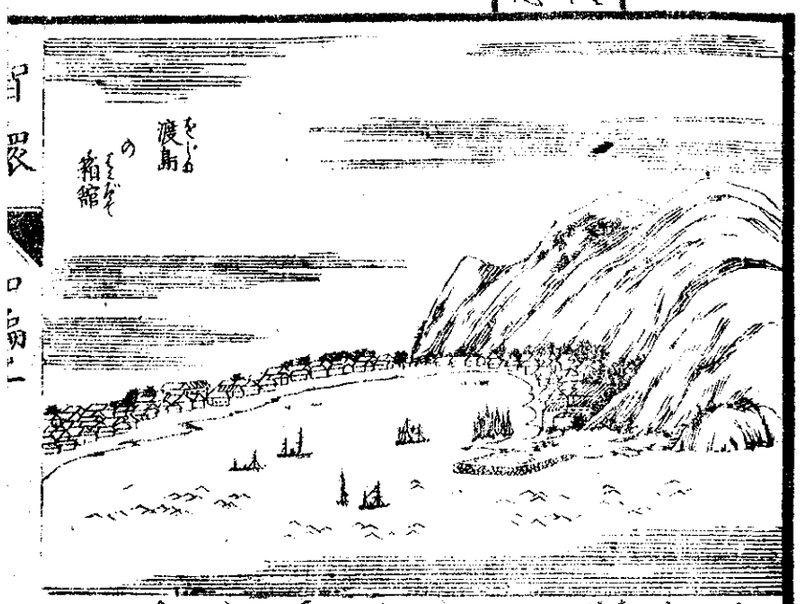
新潟

佐渡

佐渡の国は金の産出る所にて、金山と唱ふ

羽後

羽後の秋田の所にて絹の産出る所にて、これを羽後



北海道をも一ぢん まぎやのまるゝ ところ あり
後志の興市とは ところの おきは 蠟燭岩 をも
ゝのうへは つまいぢがたる いぢ。をの おは たゝの
で、かゝる らゝくのごく
ゝゝくゝゝ ゝれは 東が 蝦
で、ゆゝき
ゝゝゝ ゝし

の ゝゝ あり
渡島の ゝゝの箱館 ゝ 横濱と出張し ゝゝ かゝ
ゝきゝ みゝと ゝ あゝ。ゝの ゝゝを 人家 千軒 ゝ
ゝゝ ゝゝ 国ゞ、ゝゝゝ ゝんゞゝ ゝゝ
と あゝ ゝ、ゝを 人家 ゝを 四五千軒 ゝ ゝるべし。
ゝ みゝと ゝ かゝゝ ゝゝる ゝゝを ゝゝゝゝ
ゝゝし。ゝを 北海道の 産物 昆布 ゝゝを ゝし
ゝゝの ゝゝゝ あり。ゝゝゝ かゝゝを ゝんゝゝ
ゝゝ。ゝゝを 北海道の ゝゝを ゝ、ゝゝ ゝゝ
の ゝゝ ゝゝゝ ゝゝゝゝ ゝゝゝゝ ゝゝゝゝ

小樽内

根室

根室の糸を鮭魚、おびただしくとれる所なり

しるべ

ニシベツ

ニシベツ

志やけ

北海道を郡一村

土地の広さ

蝦夷地

蝦夷地八

アイノ

アイノ

日本

満州の

アイノ

文盲

無智

神を信じ、長者を

財産の

[illegible]

樺太の[illegible]アイヌ[illegible]の[illegible]人種

ロシヤ人　スメレングル人　タライカ人　[illegible]

人種[illegible]

[illegible]日本政府[illegible]

陸中の[illegible]鐵[illegible]

[illegible]

陸前の[illegible]の松島[illegible]日本三景の地[illegible]

松嶋[illegible]

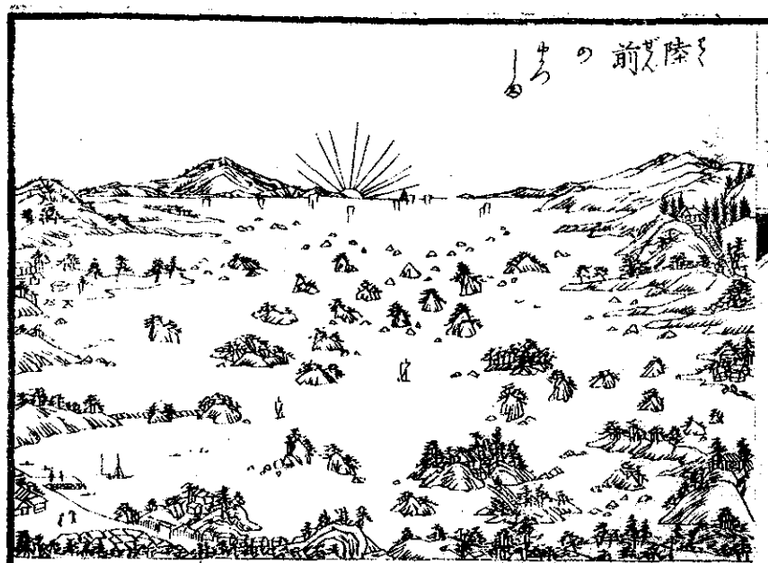
[illegible]

[illegible]

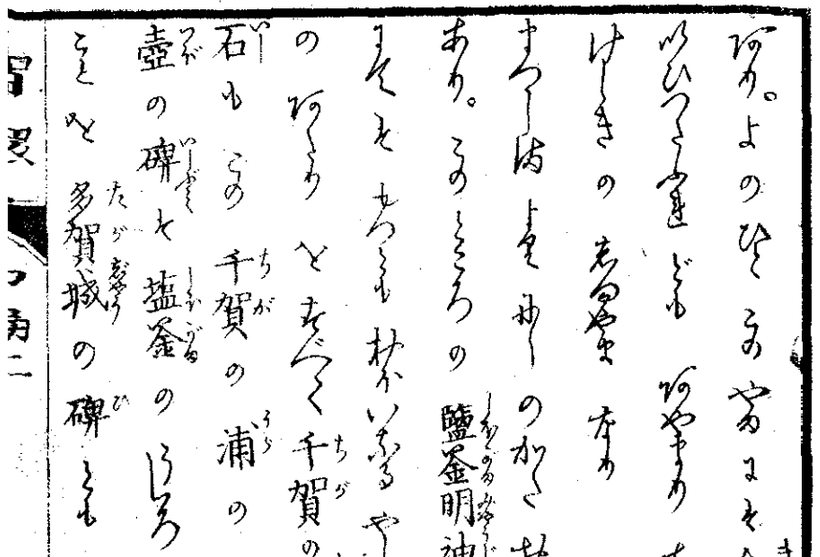
[illegible]土地[illegible]

[illegible]八百八[illegible]

[illegible]



の船出せて七八十は有べし。いそ辺の船をかぞへ
ぐれば千有
松島より本石の方一里
あまりに富の山と云
峯有。これに登りて
あづまぢ、十国の山
をひとめに見る事
まことに十里ばか
りに金華山と云峯



有。よのひと名を金の華山と云る峯
はるかに海をへだてゝ有。たゞ目の前
はきの方に有
まつ浦より西の方一里に鹽釜と云ところ
あり。この所の鹽釜明神のやしろ陸前の名
まことに高く林をいたゞきやしろあり○高名なる松島
の所々と千賀の浦と云。赤の松山沖の
石もこの千賀の浦のうちに有
壺の碑七鹽釜の
ことゝ多賀城の碑も此

まつしまより仙臺まで七里みちのくに六里あり。仙臺を陸前の国府いちばんまちにあたりせんだいの城下をひめはまとぞ。ひろき海ひろき海。この海ひろき海をいふなりこめのよくできるをもこの所にて東國第一とは岩代の陸前の国府よりきたりて製せり。

岩代

岩代の福島をこの所にもまちあるこころなり。

種紙もこれぐ製すること有。

きりをもこの所にてふかぐ。

常陸上野下野武蔵信濃の国ぐにおのぐ製せり。

信濃

信濃の国の善光寺よりよりこの所にて

日光の裏見滝

日本の高山　高山　大河

駿河の富士山　加賀の白山　信濃の御嶽山

同國の淺間山　羽前の月山　羽後の島海山

陸奥の岩城山　膳振の後志山　伯耆の大山

安藝の臥龍山　肥後の阿蘇山　日向の霧島山

薩摩の瀬門嶽一名薩摩富士

利根川　阿武隈川　北上川　石狩川

天鹽川　信濃川　大井川　天龍川

木蘇川　淀川　筑後川